

鎌倉市教科用図書採択検討委員会（第3回）会議録

日 時 令和6年(2024年)7月22日(月) 14:00 開会
17:00 閉会

場 所 鎌倉生涯学習センター 第5集会室

出席者 北村委員 牛見委員 石川委員 太田委員 鈴木委員
上妻委員 西脇委員 合田委員 岡委員 永瀬委員

事務局	澁谷教育指導課長	濱地指導主事	平野指導主事	竹下指導主事
	齋藤指導主事	石坂指導主事	露木指導主事	
	福森指導主事	荒川指導主事	岩田指導主事	渡辺主事

次 第

- 1 開会
- 2 種目ごとの説明、協議等
 - (1) 調査員会の説明及び検討、協議等
- 3 閉会

会議内容

委員長	鎌倉市立中学校令和7年度（2025年度）使用教科用図書採択検討委員会の第3回委員会を開催する。本日の議事録署名委員を牛見委員と岡委員にお願いするがよいか。
	よい
委員長	それでは、資料の確認と本日の流れについて事務局から説明をお願いします。
事務局	資料について、市内中学校9校に見本本の巡回展示し、各校調査研究したものについてまとめた「学校調査票」を用意した。 次に、本日の流れについては、まずは、各種目の検討を行ってから、社会（地理的分野）、地図、数学、技術、家庭の「調査研究報告書（案）」のまとめに移る。
委員長	事務局から説明があったが、そのような方向で種目ごと協議を進めようと思うが、よろしいか。
	なし
委員長	では、音楽一般について説明をお願いします。
事務局	音楽一般について説明する。 まず、教育出版社について説明する。 「Let's Try」では、唱歌・長唄・能の音楽・指揮等を扱っており、鑑賞活動や表現活動の学習を深められる内容となっている。 「音のスケッチ」では、言葉の抑揚やリズムなど、身近な材料で創作を段階的に取り扱っており、主体的・協働的に取り組める内容となっている。 巻末には各種楽器の写真が見開きで示されており、生徒がイメージを膨らませやすい構成となっている。 ページいっぱいに見やすく楽譜が配置されている。 続いて、教育芸術社について説明する。 鑑賞音源・模範演奏・パートごと音源など、二次元コードからの資料やデジタルコンテンツが豊富で、主体的な学習につながるよう工夫されている。 「学びのコンパス」では主体的・対話的な学習になるよう題材のポイントとなることが挙げられている。 「音楽を形づくっている要素」は楽譜やイラストなどとともに解説されていて、分かりやすく、イメージしやすい構成となっている。 学習内容が系統的に表記されており、ねらいが明示されているため学習のガイドとなり、見通しをもって学習できるよう工夫されている。
委員長	それでは協議に入る。質疑も含めてお願いしたい。 2社全部合わせて、ご意見をいただきたい。
委員	教育芸術社は、学習内容が系統的になっていて、ねらいが明確で、学びの見通しが立っている。
委員	教育出版は、一つ目の丸にあるように、段階的な歌唱活動のポイントということで指揮者の振り方なども分かりやすく示されている。
委員	段階的な扱い方というところ。
委員	教育出版の方で、2・3年の「音のスケッチ」のところで、創作という部分という難しそうなところを段階的にしていて良い。
委員	教育芸術社は、著作権に関しての解説が多めに入っている。

委員	教育芸術社は、コンテンツの内容が豊富で良い。 リズムゲームやリズムチャレンジのような、楽しんで学べるもので、子どもたちが主体的に取り組めると思う。
委員	教育芸術社は、表記表現にあるように、学習内容が系統的に表記されているといことや、ねらい、目標、テーマが分かりやすい。
委員	教育芸術社は、二次元コードにかなりの情報がある。ここに見えていないものがすごいなと思う。特に、カラピアノがあることで、この曲がどういう曲なのかすぐにイメージしやすく分かりやすい。
委員	教育出版は、楽譜が見やすい。音楽が不得意だと、楽譜をじっくり見て演奏する。楽譜が大きくて見やすいことは良い。
委員長	教育出版は、段階的な部分、創作、楽譜の見やすさ。教育芸術は、著作権、コンテンツの豊富さ、主体的な学習、学びの見通し、情報量、目標とか系統的な表記などがでた。
委員長	それでは、二重丸は教育芸術社、丸は教育出版社でよいか。 よい
委員長	音楽一般はこれで終了する。 音楽器楽について願います。
事務局	音楽器楽について説明する。 まず、教育出版社について説明する。 篠笛や箏、三味線など和楽器の構え方、奏法が豊富な写真で扱われており主体的に取り組む手立てとなる。 打楽器と唱歌によるお囃子を創作する学習活動が「楽器と唱歌によるパッチワーク」に設定されており、体験活動の充実につながる。 本編は、リコーダー、篠笛、尺八、ギター、箏、三味線、太鼓の順に各楽器が配置され、「吹く楽器」から「弾く楽器」の順で系統的には学習が進められる構成となっている。 リコーダーの運指図が適切な配置となっており、主体的に取り組む手立てとなっている。 続いて、教育芸術社について説明する。 巻末の「楽器図鑑」では、様々な楽器が系統的に示され、楽器の分類を考えたり比較したりすることができるなど、器楽教材だけでなく鑑賞で学びを深めていく手立てとなる。 模範演奏・伴奏など、二次元コードからの資料やデジタルコンテンツが豊富で主体的な学習につなげられる。 リコーダー、ギター、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八、打楽器の順に各楽器が配置され、後半にはアンサンブル曲や楽器図鑑などもあり、系統的に学習が進められる構成となっている。 「学びのコンパス」では、題材ごとにポイントをおさえた内容となっており、学びの指標になる。
委員長	協議に入る。質疑も含めてお願いしたい。 2社全部合わせて、ご意見をいただきたい。
委員	音楽一般と器楽の教科書は、出版社を合わせた方が使いやすいのか。
事務局	音楽の教員もそこは悩んでいるところである。 合わせなくても良いが、合っているとつながる部分もあるというお答えになる。
委員	器楽の教科書は授業の中でどのように使っていくのか。器楽という授業の中で使っていく

	のか。
事務局	音楽の授業の中の楽器を使ったり、学んだりするときに使用する。
委員	教育芸術社は、二次元コードのコンテンツが豊富であるというところで特徴がある。模範演奏、伴奏が充実している。
委員	教育出版は、器楽の方の二次元コードがいくつかあり見てみると、「学びのツール」というのがあり、各教科に全てつながっていることが紹介されている。広がりを感じた。主体的に学べることが良い。
委員	教育出版は、リコーダーの運指について、見やすいし、適切な配置になっている。
委員	アンサンブルというところでは、教育芸術は載っている曲が親しみやすいということが特徴として挙げられる。
委員	教育出版はゲーム音楽を取り扱っているところは親しみやすいかと思う。
委員	教育芸術社は、構成分量の一つ目の丸にもあるが、音楽家のメッセージという巻頭の特集が良い。
委員	系統的というところでは、教育芸術社はねらい、学習内容が分かりやすく示されているように感じる。
委員	二つの教科書を見て大きく違うのは楽譜の書き方。教育出版はシンプルに。教育芸術は情報量が多い。 楽譜の特徴という点での違いがでている部分かと思う。
委員長	それでは、二重丸は教育芸術社、丸は教育出版社で良いか。
委員	よい
委員長	音楽器楽はこれで終了する。 続いて保健体育をお願いします。
事務局	保健体育について説明する。 まず、東京書籍について説明する。 教科書の使い方、Dマークコンテンツの紹介、学習方法が分かりやすく書かれ、個人やグループで教科書を主体的に活用し、対話的な学習に活用しやすくなっている。 左上の二次元コードからは、Dマークコンテンツの一覧を見ることができる。各見開き右下の二次元コードからは、そのページに関連するコンテンツの一覧が見られる。動画やシミュレーション、思考ツール、資料、章末問題など、活用できる内容が豊富にあり、家庭でも学習用タブレット端末を使って自分で主体的に学びを深めることができ、教員も活用できる。 「活用する」「広げる」では、学習した知識・技能を活用して、対話的に探究できるようになっている。 1つの見開きを1時間で学習することを基本とし、各ページの左側が本文、右側が資料になっていて文章と資料を対照しやすく、使いやすくなっている。 次に、大日本図書について説明する。 「学習のねらい」が明確に書かれていて、何を学ぶのか、見通しをもって学習に取り組めるようになっている。 「話し合ってみよう」では、生徒同士の対話を通して学びを深められるようになっている。 1つの見開きで、左ページが文章、右ページが資料等で構成されており、見やすくなっている。

	デザインやレイアウトは、特別支援教育の観点から配慮されて、見やすく構成されている。 続いて、大修館書店について説明する。 動画コンテンツが豊富で、單元ごとのクイズで復習もでき、ワークシート等は教員も活用しやすくなっている。 「章のまとめ」では、各観点をそれぞれバランスよく振り返ることができるようになっている。 目次に保健編・体育編の内容が学年ごとにまとめられ、資料や読み物が一覧できるので、学習の見通しがもちやすい。 適度な文章量で書かれ、コラムや関連資料が多くあり、生徒が理解しやすい構成になっている。 最後に、Gakken について説明する。 二次元コード「章テジ」は外部リンクに繋げて参考資料を見ることができ、ワークシートも活用することができる。 各章末の「探究しようよ！」では、さらに深く調べたり、広げたりするような課題が取り上げられている。 1つの見開きが1時間での学習を基本とし、左側が本文、右側が関連する資料になっていて、対照させて学習できるようになっている。 教科書体に近いUDフォントと色覚特性に適応するカラーデザインを使用し、可読性が高められている。
委員長	協議に入る。 4社全部合わせて、ご意見をいただきたい。
委員	東京書籍だけ、保健の順番が違い巻末にある。授業の進行上教員の使いやすさはどうか。
事務局	保健編の方がよく教科書を使う。先生によって順番の違いは特にはないと思う。
委員	東京書籍のDマークコンテンツのところがイメージしやすい。子どもたちが授業を受けた時に学習しやすいと思う。
委員	Gakken 章末や探究資料など他社に比べてもいろんな資料を用意した上で話ができるよう工夫されている。
委員	東京書籍の「みつける」というところが自分の身の回りの課題と対応していて良いと思う。この後の学習につなげやすいと思った。
委員	大日本図書。巻頭のページにダイナミックな写真があり、純粋にスポーツの素晴らしさが伺える。 他社は、もう少し幅広く、保健体育という紹介のページになっている。
委員	大日本図書は、スポーツの写真がダイナミックになっている。
委員	大修館書店は、各章のまとめのところが他よりも充実している。まとめとしての抜粋がしやすい。
委員	東京書籍はデジタルコンテンツが豊富にある。 Gakken の教科書の中の、「探究しようよ」というコラムでは主体的な部分が育まれるかと思う。
委員	東京書籍のトビラの部分には体育の授業と職業が結びつくような部分があり、社会とのつながりを感じる。

委員	大日本図書は、全て「ミニ知識」が下のところに書かれており、同じ位置のため、見やすくなっている。エッセンスを加えることができる。
委員	大修館書店は、動画コンテンツが豊富。保体クイズなど生徒が復習しやすく、さらっと学習できる。
委員	Gakken は、「学びを生かす」という部分に、毎回実生活の課題に生かすことが載っているのが良い。
委員	東京書籍の巻末スキルブックが実習をやりやすそう。授業で使いやすい。大修館にも同様のものがある。
委員	章のまとめ、振り返り、学びを生かす。主体的に学ぶことができることがよいと思う。
委員	主体的な学び、学習をしていくということで東京書籍が良いというご意見が多かった。大修館、Gakken は学習に関して多くの意見があった。
委員長	それでは、二重丸は東書、丸は大修館書店と Gakken でよいか。 よい
委員長	保健体育はこれで終了する。 続いて理科について願います。
事務局	理科について説明する。 まず、学校図書について説明をする。 「理路整然」の中で実験方法の工夫や実験結果が実際は正確に出ないことなどつまずきやすい箇所の対処法として科学的な考え方を養うようになっている。 単元の最初に SDGs との関連が掲載されているとともに「SDGs を意識して脱炭素社会へ」では学ぶ意識についてイメージしやすい工夫がされている。 学習内容の文章が多くなりすぎないように、発展的な内容や資料などは最後の補充資料にまとめて掲載する配慮がされている。 全てのページの上部に二次元コードがあり、日本語以外の 6 カ国語に対応できるように工夫されており、AI チャットで生徒の分からないことにいつでも対応してくれる機能がについている。 次に、大日本図書について説明をする。 「くらしの中の理科」「professional」「つながる×Science Press」などで、科学と日常生活・社会とのつながりを示し、日本の伝統工芸についても触れるなど資料を科学的な視点で紹介している。 探究の過程に沿った学習を意識的に進められるよう、「問題をみつけよう」「計画を立てよう」「結果から考えよう」「ふり返ろう」のマークを設けている。 継続観察や継続観測が各学年の目次に配置され、一年を通して観察観測次期を逃さないように配慮されている。 最後に、教科書を見開きにした際、本文が中央によるように配置され、図や補足が周囲を囲む配置がなされている。 続いて、東京書籍について説明する。 「歴史にアクセス」では科学史にマンガが取り入れられ、生徒が学習に興味を持つように工夫されている。「問題発見」や「仮説」など探究のステップを言語化するとともに「じっくり研究」の節では、問題発見から活用までの流れが細かく設定されている。 生徒が探究のどこの活動を行っているか確認ができるよう、脚注のフローチャートで示している。 「理科の見方・考え方」の必要性が高い場面で、キャラクターがファシリテーターとして台詞調で投げかけている。

	続いて、教育出版について説明をする。 各学年の教科書の中で「私のレポート」としてレポートの作成例を掲載し、論理的な考察と表現の辞令が紹介されている。 探究の過程ごとに、意見交換したり、科学的な根拠に基づいて議論したりして、自分の考えをより妥当なものにする場面が表現されており、生徒が対話的に学び合って学習を進められるように工夫されている。 AB 変型判を採用し、ゆとりある紙面で構成され、複数枚の写真を比較することで違いを分かりやすくする図版に構成されている。 1 年生については、2、3 年生よりも文字サイズを大きくすることで、視認性を高め、読みやすくなるよう工夫されている。 最後に、啓林館について説明をしている。 巻末の「探 Q シート」は探究の過程を意識しながら、教科書から切り離して書きこみ、ノートに貼って学習が進められるように設けられている。 発展の「ひろがる世界」は、単元末でSDG s に関わる視点で学習のまとめができるように設けられている。 構成はどの単元から学習を始めても指標が内容に構成されており、同一学年内での単元指導順序の入れ替えが自由に行えるように工夫されている。 教科書を見開きにした際、本文が中央によるように配置され、図や補足が周囲を囲む配置になっている。
委員長	協議に入る。
委員	東京書籍の「歴史にアクセス」は、理解の苦手な生徒の学びきっかけになる。
委員	学校図書の外国語の対応が素晴らしい。
委員	東京書籍は問題発見から仮説までの流れが、研究を深めていく上で良い。
委員	東京書籍の構成分量で、脚注にあるフローチャートが今どこを学んでいるかわかるのでよい。
委員	東京書籍で、1 年の「科学の本棚」で本の紹介がある。科学にアレルギーのある子にも良いし、好きな子は深められる。
委員	深められるという意味では、東京書籍は良い。
委員	教育出版の「私のレポート作成例」は、例を掲載されており、苦手な子にもよく、理科的思考が分かり参考になる。
委員	啓林館の「学習のまとめ」で、学習したことが言葉で分かりやすく整理されており、振り返りができるので良い。学習意欲にもつながる。
委員	大日本図書で、「コラム」のコーナーでは関連する記事が多く掲載されているので良い。
委員	啓林館の「巻末探求シート」は、授業準備のときに役立つ。学びのプランにもなる。
委員	教育出版の「思い出そう」というコーナーでは、小学校の内容と関連づけられるようになっている。ページごとに継続的な学びへの配慮がなされている。
委員	学校図書で、レポートの書き方、発表の仕方、まとめ方など、理路整然とまとめてあり、科学的な考え方を養え、表現の仕方に役立つ。また、章の初めに、身近な生物など印象的な写真があり役立つ。
委員	東京書籍だが、「フローチャート」で、今何を勉強している最中なのか、そのページの役割が分かり良い。

委員	学校図書で、「AI への質問」のコーナーでは、教科書の参照ページの予習、復習の時に役に立つ。
委員	教育出版では、活用問題で科学的な思考が広がり、単元の最後に科学的な話題が出ているのが良い。
委員	大日本図書に質問だが、「プロフェッショナル」のコーナーは1年の教科書にもあるか。
事務局	114 ページにある。
委員	大日本図書は教科書サイズが B5 で小さくて良い。
委員	大日本図書の「プロフェッショナル」で、普段の職業と関連づけられるのが良い。
委員	教育出版は自分で読んで学びを進められる点が良い。正確に学習指導要領の順番になっている。
委員	教育出版で、要点と重要用語の整理は赤シートを用いて活用でき学習に役立つ。
委員	啓林館の「探Qシート」は特徴的である。
委員	大日本図書で、実験・観察のところに、手順等のコツが明文化されているのがよい。
委員	大日本図書で、体力問題の項目があるのが良い。
委員	教育出版、大日本図書で、1年のはじめに「私のレポート」があり、科学的なレポートの書き方がわかるのがよい。
委員長	教育出版を二重丸、大日本図書と学校図書を丸で良いか。
委員	よい
委員長	理科はこれで終了する。 続いて国語についてお願いします。
事務局	国語について説明する。 まず、教育出版社について説明する。 「学びナビ」のページで学習のポイントが詳しく解説されており、学習の見通しがもてるような構成になっている。 高校など異校種への接続を考えた発展的な内容で問題を解くページが設けられている。SDGs に関連する内容が、どの単元にも必ず盛り込まれている。 SDGs と教材との関係が一覧になっており、SDGs の視点で、現実的な課題について考えられるような教材が掲載されている。「学びを生かす」が単元の終末部分に設けられており、今後の学習に生かす視点が示されている。 続いて、光村図書について説明する。 「国語の力試し」というページで問題に取り組むことができるようになっており、身についた力が確認できる。 「語彙ブック」で気持ちを表す言葉や批評をする時の言葉などが示されており、表現力が高められるように工夫がされている。 「学びの扉」のページで、学習に見通しが持てるようになっており、また、その教材に合った振り返りが提示されているので、学びに向かう力・人間性についても力を伸ばすことができる。 話すこと、聞くことや、古典の分野で二次元コードが設けられており、繰り返し視聴することができ、個別最適な学びが可能である。

	続いて、東京書籍について説明する。 「言葉の力」の欄で、その学習で身に付けたい資質・能力のポイントが分かりやすく示されている。デジタルコンテンツが充実しており、オリジナルの資料によって学びを広げることができる教材や、自学自習ができるプリント教材など、基礎から発展的な内容まで、多岐にわたる教材が用意されている。 デジタルコンテンツにおいて、字幕の文字が音声に合わせて変わるなど、視覚的な支援が充実している。速度が変えられることや、画面の色を変えられることなど、細やかな配慮がされている。 「教材」「てびき」「学び」「話す・聞く」「書く」という学習のつながりでページが構成されており、統一性がある分、分かりやすく、それぞれの単元で身に付けた力が、他の単元にも関連付けながら学べるようになっている。 続いて、三省堂について説明する。 学習のながれが「作品」「学びの道しるべ」「読み方を学ぼう」になっており、学習が進めやすくなっている。すべての教材にデジタルコンテンツがついており、多種多様な教材で個別最適な学びが考えられている。 二次元コードから、NHK for school につながることができ、関連動画にスムーズにつながることができる。 読書活動のブックトークの紹介など、「読書の広場」や「参考資料」などのページに、協働的な学びが生かせる資料が充実している。
委員長	それでは質疑のあるかた。
委員	デジタル教科書でなくても、速度を変えられるとか、この教科書でできるということなのか。
事務局	そうである。
委員	デジタル教科書のメリットが国語は強いと思った。デジタル教科書との相違があまりないということか。
事務局	ここ数年、光村図書のデジタル教科書を使用しており、比較したところ、東京書籍、三省堂のデジタルコンテが充実していて、デジタル教科書は必要がないかもしれないという話をしていた。
委員長	それでは協議に入る。
委員	教育出版の冒頭にある「学びナビ」で、入試では全く同じ文章が出ない中で、どういう読み方をしたらいいか、なぜその物語、小説を読むのかがありよい。
委員	光村でも言ってもらったが、古典などで、繰り返し視聴することで個別最適な学びが実現するところで光村はよい。
委員	東京書籍、本の案内が一番読みたくなる。章のはじめに、学習のためというわけではなく、短歌が載っていて、生徒に馴染むのでよい。勉強の合間に読むというのが、よい。教科書自体の触りごちがよい。
委員	東京書籍、本の紹介が充実。どういう分野の本かカテゴリー分けがしっかりしているのは東京書籍。光村図書の、本文の中で関連する本が、広がる読書のところで、学びを深めるのが特徴的。
委員	三省堂について、書き方を学ぼう一覧、1年生だったら、読み方を学ぼうというのがあって、何か読む時、こういうのを学んでいるというのがわかるのがよい。絵があざやかできれい。見ていて楽しい。1年生 229 ページのように、とてもきれい。

委員	光村図書の「学びのカギ」について、読みのところの学びのカギは、読む時の視点、心情変化とか描写とかあるが、タブになっていて、今回の単元は心の変化を観点にして読みの力をつけていくなど学習内容が明確で、前後の教材を生かした学習の振り返りができ見通しももてて学びのカギの作りが面白い。
委員	縦書きで文字が多くなる中、学びやすいのは、統一感のある東京書籍、三省堂だと思った。特に、東京書籍だと、どこをみれば必要な資料があるかがまとめられていて、授業につながる工夫がされているなどと思った。
委員	東京書籍、言葉の力という下の欄で、他の文書でも対応でき良い。
委員	教育出版、SDGs の観点が各課程に入ってきていて特徴的。
委員	教育出版、漢字学習が見やすい。漢字が大きく印刷されているのが特徴的。
委員	SDGs の観点は光村図書にも。光村図書のほうが細かく、この読み物にはこれという対応表が出ている。
委員長	東京書籍を二重丸とし、光村、三省堂を丸でよいか。
	よい
委員長	国語はこれで終了する。 続いて書写についてお願いする。
事務局	書写について説明する。 まず、教育出版社について説明する。 さまざまな筆記用具が紹介されており、書く場面に応じてどの筆記具が適しているか考えられる内容となっている。 「楷書と行書の違い『和』」では、楷書と行書の違いが分かりやすく示されている。表紙をご覧ください。古典の絵巻物がモチーフになっていて、日本の文字文化の歴史をイメージさせる作りになっている。 「日本建築と『書』」というコーナーが設けられており、書道が日常の生活空間でどう生かされてきたか、写真付きで説明されており、伝統文化の面から書写の在り方を感じられるような配慮が随所にされている。 「サインペン」「フェルトペン」など、目的に合った筆記具が選べるように、アイコンが見やすく表記されている。 続いて、光村図書について説明する。 二次元コードからの資料やデジタルコンテンツが豊富で、主体的な学習につながるよう工夫されている。 左利き用の資料、動画が用意されていて、多様性に配慮されている。 楷書と行書の特徴について、生徒が自分たちで観察して違いが見つけられるように考えられたつくりになっている。 丁寧に解説がされており、関連する学習のページ数も示され、その後の学習につながるよう工夫されている。 「自分らしい文字」のコーナーが設けられており、行書を書くことがゴールではなく、日常生活に生かしたり、自分で考えながら字を書くことと向き合ったりできるように考えられている。表紙から1ページめくっていただくと「書写ブック」が別冊でついている。練習のページが別冊になっていることで、取り組みやすく、提出がしやすいように配慮がされている。また、書き込みやすい紙素材になっているのも特徴である。 続いて、東京書籍について説明する。 楷書、行書、使い分け、活用という学習のながれが扇形の図で随所に示されており、学習の流れがイメージできるようになっている。 「行書に調和する仮名」のページは、他社は「いろは歌」順になっているが、東京書籍は

	五十音順になっていることで、見やすく、学習に活用しやすくなっている。 「筆記具の使い分け」というコーナーで、さまざまな筆記具が紹介されており、それぞれの特徴と最適な使用場面が提示されている。 手書きのノートの見やすい書き方について、自分のノートを見直ししながら、効果的なノートの取り方について考えるページがあり、日常の学びにつながるように配慮されている。 続いて、三省堂について説明する。 「名言集を作ろう」では、二次元コードで国語とつながりのある単位にとべるようになっていて、書写の学習が実用につながるように配慮されている。 「行書の特徴」では、行書の特徴が一つ一つ丁寧に解説がされており、その後の筆を使った練習につながるように工夫がされている。 二次元コード一覧表があり、生徒が自分の課題に応じて学びたい動画を選んで学習に取り組むことができるようになっている。巻末には、「書き方を学ぼう 一覧」が設けられており、楷書と行書の書き方のポイントがそれぞれ分かりやすくまとめられており、一覧できるようになっている。 書写では、行書と楷書の違いが学びのポイントになっている。教育出版ではこのように行書と楷書が書かれている。光村では、楷書と行書が白いページがあり考えられるようになっており、次のページで行書と楷書が考えられるようになっている。東京書籍は、筆の流れを考えながら特徴を考えられるようになっている。三省堂、行書が大きく印刷されており、関連するページが書かれているという作りになっている。
委員長	協議に入る
委員	教育出版、日頃どんな筆記用具を使うのか、なかなか毛筆とか使う機会がない中、さまざまな筆記用具を紹介して、比較できる素材である。
委員	三省堂、教科書が軽くて良い。最初に谷川俊太郎、最後に「YOASOBI」が掲載されている。「YOASOBI」は行書で書かれていて、子どもが知っている曲が行書で書かれていて新鮮、興味を引くのではないかな。光村図書、見開きの見本が多い。コラムがあって、フォントか、ユニバーサルデザインとかが明記されていて、コラムが面白い。
委員	教育出版、内容の下にもある、文字文化と書写ということで、つながりを持たせている。
委員	教育出版は、手書きに徹底していてシンプル。 光村図書はデジタルツールでの書き方や、手書き以外にも注力している。例題が「なぜコピペをするのか」、「ユーチューバーになりたいと言ったら親はどうするのか」など、テーマが保護者や子どもたちも考えられるテーマになっている。
委員	教育出版と光村図書には左利きの見本がある。 動画になっているのが光村だけ。
委員	今、左利き用の資料がある教育出版と光村図書は良い。
委員	東京書籍、手書きのノートのコラム、自分のノートを見直すところがあり、書写で学んだことを生かすというところが良い。他にも生活に広げようというのがあり、地域の活動に参加、防災でのこと、書写で学んだことを、こういうところで生かせるよう、ポスターの作り方とか、防災訓練で参加した時に書写がどのように生かせるのか具体的に出ていて、実生活に生かせるのが良い。
委員	関連して東京書籍。3年生のところで、使いこなすという目的がでていて。3年生では実生活でどのように役立てるか、方向性が見えていてよい。資料もその方向でまとめられている。
委員	同じように光村図書も、色々なフォントを探しにいくとか、ユニバーサルデザインとか、

	防災フェスタを開こうとか出ているが、東京書籍の方が方向性が分かる印象を受けた。
委員	三省堂は、一番コンパクトにまとまっている。内容が精選されていて、コンパクトで使いやすいそう。
委員	光村、書写ブックは他にない特徴かと。
委員	三省堂、二次元コードの一覧表があって、解説動画もあって、自分たちでも学びやすい。予習、復習がやりやすい。
委員	三省堂、楷書と行書を用途によってどう使い分けるのか、生徒に考えさせて書かせている。
委員長	光村図書を二重丸。東京書籍、三省堂丸でよいか。
委員長	よい。
事務局	書写はこれで終了する。 続いて道徳について願います。
	道徳について説明する。 まず、東京書籍について説明する。 NHK番組を活用した教材や、まんがやグラフなど様々な形式の教材が収録されており、多様な学びに対応したり、協働的な学びによる多面的・多角的思考を促す授業づくりができたりするようになっている。 各教材に「考えよう」「見つめよう」「考えようをぐっと深める」という中心発問と自己を見つめる発問が示され、学習者の思考に沿った発問がなされている。 自分の気持ちを伝えやすい心情円が、紙だけでなくデジタルでも用意されているなど、デジタルコンテンツが充実しており、二次元コードから東京書籍のサイトに入ると、すべての教材に対して音読、ワークシート、教材によって内容の理解を深める補助資料が付いているので学習しやすい。 写真や絵を大きく見せるなど、生徒の学習意欲を促す工夫がある。
	続いて、教育出版について説明する。 「学びの道しるべ」に中心発問と自己を見つめる発問が示されており、三つ目の質問が自分ごととして捉えやすくなっている。 巻末に「よりよく生きるってどういうことだろう？」を掲載し、一年間の学びを通して自分を見つめることができるようになっている。 3年間を通して教材に登場する等身大の中学生が表紙絵に描かれているので、生徒の学習意欲がわきやすくなっている。 B版でありながら字が大きく、さらに教材内容によってフォントを使い分けている。
	続いて、光村図書について説明する。 全学年の初めに道徳の導入コンテンツがあり、中でも「道徳で学ぶ22のキーワード」が、イラストで示されており、生徒が学びのイメージをもちやすくなるよう工夫されている。 「考えよう」という道徳的な価値を明らかにする問いと、その価値について理解や自覚を深める「見方を変えて」と「つなげよう」という問いが設定されている。 B5変形版で生徒の机に収まりやすく、紙面にゆとりもあるので学習しやすくなっている。 ページ全面を使用した迫力ある写真が収録されており、教材のイメージを具体的にもちやすくなっている。
	続いて、日本文教について説明する。 いじめのコラムに見られるように、発達段階に応じた、学年ごとのテーマ、1年「であう」、2年「みつめる」、3年「ひらく」を設けて、教材を配列している。 「いじめ」や「より良い社会」については、年間の中で何度も考えられるように、多様な

委員長 委員 委員 委員 委員 委員 委員	教材を複数配置している。 別冊『道徳ノート』があり、学習者や教員が学習に合わせて「問い」を記入でき、毎時間の学習の記録を残すことができる。 表紙絵や挿絵に多種多様な登場人物が描かれておりダイバーシティに配慮されている。 続いて、Gakken について説明する。 3 学年を通して、東日本大震災や新型コロナウイルス感染症などを多面的に捉えた時事教材が複数収録されており、学習に活用しやすい。 巻頭に思考ツールの二次元コードが掲載されており、道徳だけでなく他教科での学びにも活用しやすくなっている。 SDGs、多様性、キャリアという現代的な諸課題について、多面的・多角的に考えられるようなユニット教材が配置されており、ユニット学習の始まりにはユニットを貫く問いが示されている。 A B 版を使用しており、広い紙面を生かして写真やイラストがダイナミックに配置されている。生徒の興味や学習意欲喚起につながる工夫である。 続いて、あかつき教育図書について説明する。 教材の最後には、「自分との対話」という問いが設けられており、生徒が自分事として考えを深められるように工夫されている。 いじめの相談窓口につながる二次元コードが掲載されており、実際に役立つ情報となっている。 「いじめを考える」「情報モラル」「キャリア」など現代的な諸課題についてのユニットが 3 学年を通じて展開され、継続して学びを広げ深めることができるようになっている。 B 版だが、視認性が高いユニバーサルデザインフォントを採用しており、見やすくなっている。 続いて、日本教科書について説明する。 「自分」「ほかの人たち」「生活」「命・環境」の順に視点が広がるように内容が構成され、他者とともに生きていくことの意味を理解できるように配列されている。 日本の話題を扱った教材が多く、自分の住む国について興味を持たせやすくなっている。 マークのついている教材は、巻末にある「ウェルビーイングカード」を使うことで、自分の考えを仲間と共有する際に、考え方を相手に示すことができる。 車いすの生徒の絵を使用するなど、ダイバーシティに配慮した表紙絵になっている。 それでは協議に入る。質疑も含めてお願いしたい。 東京書籍について、前回の採択でもあったと思うが、心情円で自分の気持ちが見られるというのが特徴だったと思う。 あかつき教育図書は他に比べて文章が中心になっている。逆に光村図書はワークの形式が多く、書き込んだり考えることが多いと思う。 教育出版・Gakken・東京書籍などは、SNS などのトーク画面を使いながら何が問題だったのか今の子どもたちに考えさせるよう取り上げられている。 あかつき教育図書や教育図書に関しては、SNS というよりネットを通じた誹謗中傷の問題になっているところが、他と違う点。 今はどちらかというと SNS の方が身近なので、そちらが載っている方が今の子どもたちは良いのではないかと思う。 日本文教。「視野を広げて いじめ」では、きっちり「いじめ」という言葉をしっかり明記して、いじめの定義などをしっかり学べるようになっているのが良い。 いじめという定義をしっかりと押さえた上で、学習に入れるようになっている。 光村図書について。巻末にある「まなびの道具箱」は、話し合いに必要な思考ツールや学習活動に活用しやすくて良い。また、表紙のトビラには思春期に入った子どもたちに刺さるような文章がどの学年にもある。多感な子どもたちが使う教科書としては良い。
--	---

委員	電車などの席を譲る題材や読者投稿の題材はどこも扱っているが、光村図書の1年生の「席を譲る読者投稿」は、席を譲ったのに嫌な言葉が返ってきたという投稿があるが、多面的・多角的に思考、話し合っていこうと、丁寧な切り口で、子どもたちが考えやすくなっている。全体的に光村図書は丁寧に作られている。
委員	「読者投稿」が考えられる素材になっている。道徳を自分ごとに捉えやすくなっている。
委員	東京書籍1年。いじめ探しのイラストがあり、視覚的に考えさせるのは他の教科書にはない点である。
委員	子どもたちがいじめをどう考え、どう捉えるか。
委員	東京書籍。教科書に直接書き込むことが多い。子どもたちが教科書に直接書き込んで、考えをまとめることができるので、使いやすい。
委員	教育出版。それぞれの主題に沿った教材が35個あるが、内容の合間に「広場」というページがあって、教材の学びを広げる目的のページがあり、主題を深めようという作りが特徴的で良い。
委員	東京書籍。「プラス」は内容の理解を広めたり、視野を広げやすい。
委員	Gakken。開いて4ページくらいのところに道徳科で考えること、考え方が示されており、道徳をどうやって学んでいくのか明解に示されているのが良い。最初のところで、「どういうテーマで学ぼう」が見やすいイラストで示されており、やる気を起こさせる。
委員	日本文教。道徳ノートが良いと思った。発問が書いていないので、例えば行事のところでこういうことを考えてほしいなど、うまく汎用できるようになっており、学校生活で使いやすいとなっている。
委員	光村図書。「道徳で学ぶ22のキーワード」が子どもに分かりやすくイラストで示されている。また、どの学年も道徳の道案内というページがあり、学びの見通しを持てるよう子どもをアシストする作りが良い。
委員	ソフトタッチな感じがある。
委員	他の教科書にあるか分からないが、ウェルビーイングは、目指すべき社会である。
委員	日本文教。「リスペクト アザース」は御成中学校の生徒の作品。御成中学校の生徒が書いたという点では、鎌倉の教科書として良いのではと考える。
委員	日本文教の主題以外のところで「広げよう」では、視野を広げてというページがあり、他教科とつなげたり、視野を広げたりするような話が出ていて良いと思う。
委員	日本教科書。4コママンガを配置することで、子どもたちも楽しめるよう興味を惹くことで、学習内容を掴むことができ、きっかけ作りとして良い。
委員	あかつき教育図書。 教科書の教材のあとに「Thinking」という教材としてはとりにくいものや視点を変えたいときに手立てとなる資料や「マイプラス」には考え方を変化させたい時の手助けとなるものがあるところが良い。
委員	Gakken は、コロナの話題が出ているが、話題としては、少し古いか。医療従事者に対する考え方などは惹かれるものがあるが、その時の考え方を子どもたちが認識できるか心配。
委員	日本文教。「リスペクト アザース」は、学校評を見ると知らない教員が増えた。学校票も1票のみ。2012年に法務大臣賞をとっている。

委員	日本文教のようにいじめに特化する必要はないのではないかという意見もある。
委員	いじめの題材は扱わなければならないが、ありすぎると場合によっては取り扱えない状況も考えられるため、デメリットもある。実際にあったことを題材として別に扱うことも考えられるので、題材として少なくとも良いのではないか。
委員	教育出版。SNSの今の課題について示されている。必要な時に、いじめの話題も教材になっていくと考えられる。教育出版でも十分であるとする。
委員	Gakken。文章のタイトルの下に副題のコメントがあり、道案内となるヒントがあることで文章が苦手な生徒にとっては読みやすくなる。
委員	教育出版。考える内容が多い。パッと見てわかるというよりは、じわじわという感じである。
委員	Gakken は、脚注が充実している。登場人物や言葉の説明が詳しく、学びに配慮されている。
委員	また、道徳はトビラの 1 ページ目が重要だと考えるが、見開きで美しい写真と素敵な言葉が載っている。子どもたちに言葉から伝わるメッセージとしてとても良い。
委員長	東京書籍が二重丸、光村図書と Gakken が丸でよい。
委員長	よい
事務局	道徳はこれで終了する。 続いて、英語について願います。
	英語について説明する。 まず、東京書籍について説明する。 言語活動を通して得た学びによって、多様性が尊重される社会を自らの手で築けるよう、ダイバーシティメモなどコラムが充実しており、生徒の気づきを促している。 二次元コードからアクセスできる本文内容の動画では、英語字幕ありの動画、なしの動画、音声のみと 3 パターンが用意されている。 巻末についている CAN-DO リストでは、小学校から中学 3 年までの学習のそれぞれの段階における目標が明示されている。 1 年生では、フォントが手書きに近いものを用いている。
	続いて、開隆堂について説明する。 二次元コードから各パートのリスニング、単語帳にアクセスできるとともにスピード調節機能がついており、生徒が個々のペースで学習を進めることができる。 様々な国の文化に焦点を当てており生徒の異文化理解を促す内容が多く、教科横断的な学習に発展させることができる。 各 Program が Scene、Part、Review、Action の流れで構成されており、導入から自己表現まで段階的な学習構成となっている。 新しい学習事項がわかるよう、新出表現の重要な部分が朱書きされている。
	続いて、三省堂について説明する。 アニメーション動画、文法解説動画、単語クイズ、フラッシュカード、録音しての発音チェック機能、単語や本文音声など、二次元コードからの教材が充実しており、すべての生徒が個々の目標にあわせて学習しやすい。 デジタルコンテンツの英和辞典を自学自習等で積極的に活用し、語彙や表現を広げるなど、個別最適な学びにつなげたり、自律的な学びを支えたりする工夫がされている。 各 Lesson がリスニングタスクから始まっており、言語習得のプロセスの観点から効果的な構成となっており、題材やテーマに親しむ工夫がなされている。 現代の中学生が好むと思われるイラストのタッチで登場人物などが描かれており、生徒が

	興味を持ちやすい。 続いて、教育出版について説明する。 「Tips」では、活動内容に応じて英語を運用する4技能5領域を高めるコツが書かれている。 各Lessonの最後に「Tips for Speaking、Reading、Listening、Writing」のページがあり、4技能がバランスよく組み込まれている。 見通しを持って学習できるよう、各単元の扉に「内容理解の目標」「活動の目標」が設定されている。 巻末の「Can-Do 自己チェックリスト」において、年度末時点での到達度を自己評価できるようになっている。 続いて、光村図書について説明する。 生徒が共感しやすい話題が多く掲載されており、日常生活で使う頻度が高い表現が使われている。 デジタル教科書の内容が充実しており、実写ドラマを始めとして、生徒が興味を持って学習に取り組むことができる。 各Unitの扉に目標が示されており、生徒が見通しを持って学習を進められるように構成されている。 各学年の目標、現在地、および目標に到達するまでの成長イメージを視覚的に捉えやすい。 続いて、啓林館について説明する。 化学的な話題やSDGsを取り扱っている題材が多く取り上げられており、教科横断的な学習に発展させやすい。 「Think and Write」などのコーナーでは与えられた課題に対して自分の意見を聞いて述べる場面が設定されている。 巻末付録にリスニングスクリプトが掲載されており、生徒の自律的学習の支援がなされている。 小学校の外国語授業の中で音声で慣れ親しんだ単語を新出単語とは別に表示している。
委員長	
委員	協議に入る。
委員	光村だけデジタル教科書が入れられている。他の会社と比較しているのであれば良い。
委員	他社にはアニメがついている。光村には実写のドラマもある。どの会社もデジタル教材が工夫されている。
委員	三省堂 リスニングタスクから始まるのは良い点である。
委員	光村図書は、ものの教え方の構造で、まず自分のことが言える、その後相手という対話を重視しているので日常生活に使えて、体系的に学べる。
委員	三省堂は観光都市、鎌倉としての学習がある。鎌倉が具体的に扱われているのか。
事務局	具体的に鎌倉が扱われているわけではない。鎌倉にとって大切なことを系統的に扱っている。
委員	開隆堂 スピードを自分で調整できる機能がある。どこの会社もあるか。
事務局	全社ついている。一番少ないのは啓林館の2段階。三省堂と光村図書は5段階6段階。それ以外は3段階くらい。
委員	三省堂は英和辞典が入っているのか。他のところは入っているのか。
事務局	三省堂は、英和辞典が入っているため、辞書を購入する必要がない。他のところにはな

委員	い。
事務局	英単語は検索できるわけではない。教科書の中だけの単語か。
委員	検索はできる。単語から直接とぶこともできる。
委員	三省堂 巻末の資料の充実は一番。
委員	光村図書は、構成分量の中のレッツトークは子どもたちの会話が広がる。自分の考えも広がるし会話でも使える。英語は使うことが大切。
委員	光村図書は、日常生活で使う頻度が高いキーフレーズで、使うことが取り上げられている。
委員	啓林館は、文法指導が丁寧で、広い内容で見やすいのがいい。
委員	開隆堂は、多岐にわたっていろいろな文章が載っていて横断的な学習につながる。
委員	啓林館は、他の教科書会社と違い、環境問題など社会的な課題に関する独自性のある話題が多い。ちょっと内容的には難しいところもある。
委員	教育出版は、トピックスでここを元に他のことに発展していけそう。
委員	東京書籍は、単語のところに本文中に出てくる新単語に合わせて小学校で習った単語が載っている。小中連携を意識しやすい。他の会社にはあまりない。
委員	光村図書の物語 48 ページ エクストラストーリーが読み手の関心を引き出す。登場人物のえりちゃんは、光村図書の書写に出てくる。そこまで連携している。
委員	教育長の話を聞くと、中学校のレベルが高いが差があるということ。差を埋めるためのツールにもなるか。
事務局	そのとおり。アニメーション動画、文法の解説動画はどこもある。三省堂の特徴 スピーチの活動の実写モデル動画もある。フラッシュカード機能が三省堂と開隆堂はついている。苦手な単語だけ残っていく。英語が苦手な子が補っていける。
委員	得意な子もつまらないか。
事務局	辞書機能 1 年生も 3 年生までの単語が全てリンクされている。得意な子も発音チェック機能などで頑張ろうと思えるのでは。
委員	全ての単語に対応しているのか。
事務局	キーセンテンスが対応している。
委員	キーセンテンスだけなら横断的な学びにはならない。教科書の英文全てならば話がわかる。
事務局	先ほど一文ということだったが、全文練習もできる。モデル文の英語を入力して、発音確認もできる。
委員	いろいろな形で学べる素材が多い。
委員	教育出版は、登場人物のロバートをボブと呼ぶなど、英語圏の人が本名じゃない呼び方をすることがわかる。
委員長	

委員	開隆堂は、長い文章があまりなくてやりやすいのではないかな。
委員	開隆堂のパラパラまんがは子どもの興味を引く。
委員長	ニューホライズン 夏休み特集 夏休みに特化したページがある。先生たちがやりやすいのか。
委員	それでは、二重丸は三省堂、まるは開隆堂と光村でよいかな。
委員長	よい
事務局	英語はこれで終了する。 続いて社会（公民的分野）について願います。
	公民について説明する。 まず、東京書籍について説明する。 各節に「探求のステップ」が設定されているため、節をとおしての学びができるように工夫されており、生徒が自らの学習課題を設定しやすくなっており、学習者中心の学びが実現しやすい。 また、各章に設けられた「みんなでチャレンジ」では、授業内で生徒同士が対話的に学びを深められるように工夫が見られる。すべてのページにおいてデジタルコンテンツとして二次元コードが読み取れるようになっており、授業内や家庭でも生徒の学習支援として活用できる。 他の分野・他教科との関わりがある内容にリンクマークをつけることで他教科との関連性を感じながら学ぶことができる。
	続いて、教育出版について説明する。 「公民にアプローチ」が見開き2ページで書かれていることで、情報処理能力の向上につながるよう工夫されている。 SDGs との結びつきについて確認できる内容が多くあり、公民的課題をより身近な存在としてとらえられる。 各章の始めに「ウォーミングアップ！公民」が設けられていて、興味関心を持ちやすくなっている。ページのレイアウトで、本文とそれ以外で色を変えて分けているため、見やすい。
	続いて、帝国書院について説明する。 「アクティブ公民」により、教科書の見開きと連動した資料が用意されており、対話的活動ができるようになっている。 思考ツールの活用ができ、その使用方法について詳しく解説されていて活動の定着がしやすくなっている。 見開き中央の下箇所が文章で、周囲を資料が囲む構成になっている。本文ページの資料の配置の仕方、説明の仕方ともに視覚的に見やすいデザインとなっている。
	続いて、日本文教出版について説明する。 「アクティビティ」では、教科書の太字を深める内容と連携した表現が多く、現代の事件や出来事も反映されているため、理解を深めることができるように工夫されている。 「チャレンジ公民」では、身近な事象を題材としながら、単元の内容を理解できるように工夫がされている。 学習のはじめのページで問いを立て、見通しが持ちやすい構成になっている。類似用語集として、用語の理解を促すページが設定されている。
	続いて、自由社について説明する。 タイトルの下に発問があることで、何に注目すればよいか分かりやすい。また、発問とつながる「ここがポイント！」があることで、内容を深めるための工夫がされている。 コラムの「もっと知りたい」では、興味関心を促す内容となっていて、学習を深めるための工夫がされている。

委員長	タイトルが通し番号になっているので、進度が分かりやすく表現されている。資料が少なく、精選されているので、空いているスペースに資料への書き込みができる。 続いて、育鵬社について説明する。 「やってみよう」では、個人やグループでの活動が行えるよう工夫がされている。学習内容によっては、歴史的背景を含め、詳細な内容を進めるような工夫がされている。文章と資料の背景の配色が違うことで見やすくなっている。 日本の伝統文化が見開きで写真掲載され、分かりやすい工夫がされている。
委員	協議に入る。
委員	自由社は資料が簡潔で少なく、文章をとおして学ぶことができる。
委員	教育出版はウォーミングアップ公民が導入部分に最適だ。
委員	導入という部分では、帝国書院の「アクティブ公民」も中学生が考えやすく対話的な活動がしやすい。
委員	日文はアクティビティ各項目の頭にこのページで何を学習するかがコンパクトにまとめられていて分かりやすい。
委員	育鵬社 文書と資料が色分けされており、資料があるかどうか一目瞭然で分かりやすい。
委員	帝国書院は節の問いが本時の問いと合わせて継続的に掲載されており、目標に向かいやすい。
委員	育鵬社は、それぞれの価値観の違いをお互い話し合っていく活動がしやすいのではないかな。
委員	帝国書院は「何を考えながら学んでいるのか」という問いがすべてのページに載っているので、資料を見ながらでも何を学んでいるのかが分かりやすい。
委員	教育出版はSDGsとの結びつきがしっかりと書かれている。
委員	教育出版は教科書に直接書き込める欄があり、子どもたちが考えていることが整理しやすい。
委員	東京書籍は導入の活動が面白い。また、評価や資料の所在が明確で、ページも見やすい。
委員	東京書籍はまとめの活動において、従来の知識の確認から理解を深める流れがよい。さらに、もっと知りたいというコラムがあり、関連する分野の学習を深める資料も充実している。
委員	帝国書院は、巻頭のページに鎌倉の江ノ電が乗っていたり、他にも鎌倉市のマナーに関する条例が載っており、鎌倉の子ども達の関心をひきやすい。
委員	教育出版は思考判断もできるような課題が出されている。
委員	日文はバリアフリーの本物の点字を載せていたり、年表にその時の流行語が載っており、子どもの印象に残りやすい。
委員	自由社は各章末にまとめと発表があり、自ら表現したり、主体的に考えていく活動につながる。
委員	東書は学習の振り返りがしやすくなっている。帝国は鎌倉の事例条例など身近な教材を取り上げられるのが良い。

委員長	それでは、二重丸は東京書籍、丸は教出と帝国でよいか。
委員長	よい
事務局	社会（公民的分野）はこれで終了する。 続いて社会（歴史的分野）について願います。 歴史について説明する。 まず、東京書籍について説明する。 各本文ページの図版資料に対して、技能を活用する問いが随所に設定されており、資料を活用する資質を高めることができる。 学びを支える多様なデジタルコンテンツが用意され、授業の導入や知識の定着に利用できる。章始めの「探究課題」、各節の「探究のステップ」、一単位時間の「学習課題」が丁寧にとまめて書かれており、生徒が学習の見通しをもちやすくなっている。 本文と図版の領域が背景色によって区別されており、読みやすく工夫されている。 続いて、教育出版について説明する。 単元の導入のページ「LOOK!」によって着眼点を示し、生徒に手がかりを与えることで学習へ向かいやすくする工夫がなされている。 単元を貫く問いが設定されていることで、見通しをもって探究できるような工夫がなされている。 各節の終わりに「節をとらえる」というコーナーが設けられ、節ごとに学習を整理することができる。本文のページで使われる色の彩度が比較的、高くなっている。 続いて、帝国書院について説明する。 32 ページから始まる「鉄から見えるヤマト王権」、238 ページから始まる「護憲運動と政党内閣の成立」を始めとして、原因と結果の関係や歴史的影響を丁寧に描いており、歴史的な見方・考え方を使って探究的な学びができるようによく編集されている。 各節の始まりには、大きなイラストで各時代の社会の様子を概観できる「タイムトラベル」によって、生徒が主体的に問いを持てるような工夫がなされている。 章が進むごとに本文の量が増加し、学年が上がるにつれて、より分析的に考察できるように工夫されている。「世界とのつながりを考えよう」のコーナーでは、イラスト地図によって興味を持って学習できるように工夫されている。 続いて、山川出版社について説明する。 「大正デモクラシーと政党内閣の成立」を始めとして、本文の記述が大変丁寧であり、各時代の特色を詳しく学ぶことができる。 「産業革命と社会の変化」をはじめ、世界の歴史が丁寧に描写されている。本文の記述が充実しており、情報量が豊富である。 各章のまとめや特集ページのレイアウトがシンプルかつ洗練されており見やすく、また、図版資料も印象的に掲載されている。 続いて、日本文教出版について説明する。 デジタルコンテンツ内のイントロダクションムービーにより学習者中心で学習に取り組みやすく、同じくデジタルコンテンツ内のポートフォリオを活用することで、学習者の変化、成長を評価しやすく、確認小テストも、気軽に生徒自身で学習に取り組むことができる。 各章のはじめにある「学び合い」のコーナーによって、協働的な学びを行うことができる。 二次元コードが全ページに表示され、デジタルコンテンツが利用しやすくなっている。本文ページに使われている色みが統一されており、生徒にとって見やすい配色となっている。 続いて、自由社について説明する。 各単元にコラムが設定されており、幅広い知識と教養を身につけさせる入口となるように配慮されている。

	本文ページは、問いと「チャレンジ」によって構成されているとともに、調べ学習のページが設定されており、生徒の探究を促す工夫がされている。 学習内容ごとに本文、資料などが見開き２ページ程度でまとめられているとともに、本文を補う資料が充実しており、資料から歴史的事象を読み取る力の育成が期待できる。 本文が、「です・ます」体になっており、また、図版では、深みのある色が使用されている。 続いて、育鵬社について説明する。 各章の始めに、歴史を大観する「歴史絵巻」を設定し、小学校で学習した内容を振り返りながら、歴史への興味・関心をふくらませ、学習する意欲を高める工夫がみられる。 各章のはじめに、章で学習する時代の人々の生活を描いた絵画や写真を「虫の目で見ると」掲載し、資料読解能力を高めるとともに、文化財を通じて日本の伝統文化を尊重する態度を養うことができる。各時代で学習する日本の文化財の写真や説明が掲載されるなど、日本の伝統や文化に関する記述が充実している。 ユニバーサルデザインフォントを使用し文字の視認性が高くなっている。 続いて、学びについて説明する。 各章、各ページのタイトルが印象的で、意欲を引き出すものになっている。 各節に、深い学びにつながる問いが設定されていて、細かい事象に注目することで、歴史学習全体に通じる見方・考え方を身につけることに役立っている。 大判（Ａ４版）で、地図・グラフをユニバーサルデザインにすることで、資料や写真が非常に見やすくなっているとともに、教科書の導入で使用される図版が大きく、印象的に掲載されている。 最後に、令和書籍について説明する。 各章の始めに、時代を象徴した大きな挿絵が盛り込まれ、生徒の興味を引く内容となっている。答えではなく、問いを提起することを重視しており、定期的に「考えよう」というコーナーで生徒の思考力を高める問いを出題している。 小見出しごとに課題が細かく設定されており、生徒が問いを持ちながら本文を読むことができる構成となっている。 漢字が積極的に使用され多くのルビがふられているとともに、人物や歴史的事象に関する語句は、フォントを変えて記載されている。
委員長	
委員	それでは協議に入る。
委員	令和書籍について。 歴史が好きな生徒はずっと読んでいられる内容がたくさんかかっている。読み物でずっと持っていたい感じ。
委員	育鵬社は、歴史絵巻が面白い。独自の観点、興味が湧く内容だと思う。
委員	山川出版社について「大変」丁寧に書かれているということで、「大変」ということで、何か意味があるのか。
事務局	山川出版社の「大変」には、より詳しくという意味が込められている。
委員	東京書籍の構成の３つ目、章のまとめで思考ツールを用いており、まとめやすくなっている。
委員	質問。受験を考えた時の、同じ神奈川県内の高校を受験する際、近隣の自治体の内容と違うということで、受験において不利益になることはないのか。
事務局	指導要領によって教科書は作られている。入試問題も指導要領の内容によって作られるので記述をもとに試験が作られるわけではない。その点は大丈夫である。
委員	検定を通っているということは指導要領の内容を網羅しているということである。特徴の差があるだけである。

委員	帝国書院、内容の 4 つ目の丸。 パフォーマンス課題のアクティブ歴史が、対話的で深い学びができる。
委員	タイムトラベル、魅力的な内容がよい。見つける楽しさとなんだらうと好奇心をくすぐるいい工夫である。
委員	学び舎について、それぞれのページの冒頭に絵や写真が大きく掲載され、学ぶ意欲が引き出される構成となっている。
委員	令和。ここまで歴史と古事記を連動させているのはない。神武天皇の統制とか、なかなかない。
委員	日本文教出版について、見開きにイントロダクションムービーがあって、すべてのページにあって良い。チャレンジ歴史のコーナーでは自分で学びを深めることができる。また、地域調べとうこと学習を広げることができる。
委員	山川出版で、近世が詳しく書かれているなという印象。いろいろな角度から歴史を考えようとなって、地域ごとにまとめられており、歴史の事実の流れだけではなく地域の流れもあって魅力的な教科書である。
委員	学び舎について、情報がコンパクトにまとまっているので、世界もあわせて幅広く学ぶことができる。だから人間の歴史となっているのかなと。つぎ調べてみようかと発展的な学びにつながる教科書。
委員	帝国出版。原因と結果、因果関係、歴史的背景、影響、こういった部分が書かれているところで、探究的な、歴史的な学びが把握できるように構成されているというところが挙げられていると思う。
委員	東京書籍 世界の歴史のページのところでも、日本では何時代かが表示されているので、年表をひっくり返さなくても、日本の歴史と世界の歴史を常にリンクして歴史を見ることができる。
委員	日本文教出版 用語の説明が、何ページかふってあって、どこのページに書かれているか明記されているので、自分で学びが進めやすいと思う。
委員	教出、記述がしっかりなされているかと。空から見た現在の鎌倉や、切り通し、どうしてこういうところがといったところに言及していたり、鎌倉にふれるといったところ、鎌倉時代の暮らしに続いていく。かなり細かく編集されているのかなと。
委員	自由社。コラムがすごく充実している。外の日から見た日本、世界の中の日本という立ち位置でかかれたコラムがたくさんある。
委員	東京書籍は、話し合いの課題が、小さくだが、いろいろなところに設けられている。
委員	東書、教出、内容が特定の思想や事実に突出することなく、切り口を教師が選択でき、子どもでもある程度のラインで勉強をしやすい。
委員	育鵬社。歴史絵巻があり、大きな歴史の流れが理解しやすく、流れのところをイラストをまじえながら描かれ、小学校で学習した内容を振り返りながら理解できる。
委員	帝国出版を二重丸、日本文教書籍、東京書籍を丸でいかがか。
委員長	よい。
	全種目協議が終了した。

事務局	本日協議した報告書（案）の確認方法について事務局から説明をお願いします。
委員長	報告書（案）の取りまとめについては事務局で行い、最終的な確認や文言の調整については事務局並びに委員長と副委員長にお任せいただきたい。
委員長	事務局から報告書（案）の取りまとめと最終確認について提案があったが、よろしいか。 よい それでは、以上をもって令和 7 年度(2025 年度)使用教科用図書採択検討委員会第 3 回を閉会する。

会議録署名
令和 7 年度(2025 年度)使用教科用図書採択検討委員会

委員長（ 太田 洋 ）

会議録署名委員（ 牛見 誠人 ）

会議録署名委員（ 岡 彩絵 ）